

第338回 大阪大学臨床栄養研究会 (CNC)

日時：平成25年6月10日(月)18:30

場所：大阪大学医学部講義棟B講堂

テーマ『糖尿病治療；血糖コントロールの新しいスタンス』

糖尿病治療において血糖コントロールが重要なのは間違いありませんが、近年その目標に関する新しい考え方が発表されました。本邦においては高齢糖尿病患者が著しく増加していますが、特に高齢糖尿病患者を診療する際にこの新しい治療コンセプトを理解することは重要と思われます。そこで、今回は堺で糖尿病臨床に従事しておられる

市立堺病院 腎代謝免疫内科部長 藤澤 智巳先生 に

ご講演をお願いしました。糖尿病治療における新しいスタンスをわかりやすく解説していただけるものと思います。多くの方々のご参加をお待ちしております。

講演内容

糖尿病治療の進歩に伴い、血糖を低下させようとするれば以前よりも低下させやすくなった。しかし、その分血糖コントロールの方針によっては潜在的あるいは顕性低血糖のリスクも高い治療環境となったと考えられる。

血糖が高いほど細小血管障害や動脈硬化性疾患のリスクが高くなるのは言うまでもない。しかし、逆に治療によって血糖を低下させると合併症のリスクが低下するかどうかについては、近年様々な集団を対象にした前向き研究の結果が明らかになり、そう単純ではないことが明らかとなった。これらをふまえ、血糖コントロールについてはこれまでとは少し違った目標で行うことが望ましいとされ、この度“熊本宣言”が発表された。今後はこの新しい血糖コントロール目標での治療が求められるが、特に合併症を有する患者や高齢でADL・認知機能の低下した糖尿病患者の治療にあたっては、この新しいスタンスとその背景を正しく理解することは重要である。

そこで、本講演ではこの新たな治療目標が提唱されるに至った背景に関して、糖尿病患者の診療にあたる医師のみならず、その看護、栄養・服薬指導および療養指導を行うスタッフには知っておいていただきたい点についてお話しする。特に重症低血糖を避ける必要性についても言及し、新しい治療スタンスに関する理解を深めていただきたい。

世話人：老年・高血圧内科 杉本研

E-mail: sugimoto@geriat.med.osaka-u.ac.jp

次回、第339回CNCは、免疫アレルギー内科 田中敏郎先生のお世話で
平成25年7月8日(月)に開催予定です。